

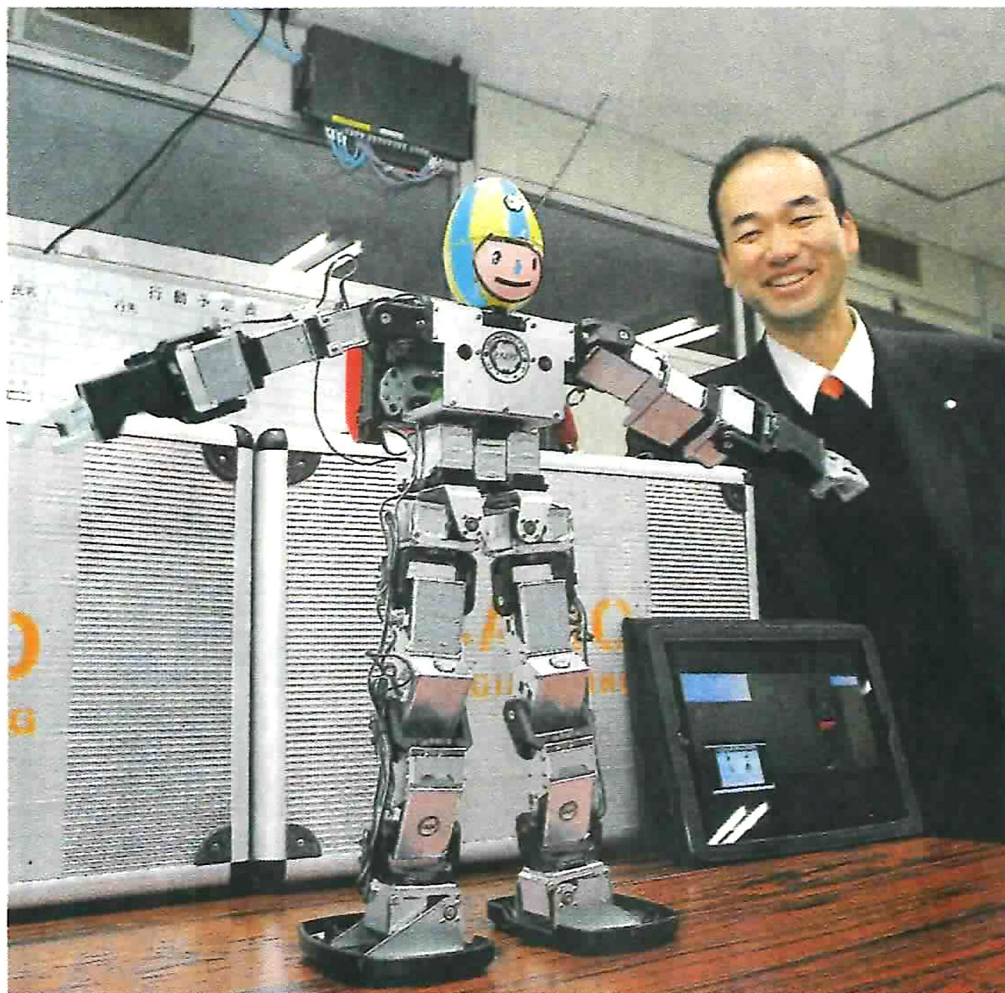
「ミナモロボ」が軽やかダンス。名古屋市の自動車・航空機部品の設計会社が開発した災害時飛行探査ロボットが、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の公式ダンス「ミナモダンス」を踊り、話題になっている。(久松孝志)



名古屋の設計会社が開発

ミナモロボ、軽快ダンス

災害時探査ロボ活用 腕や膝の動きスムーズ



ミナモダンスを踊る人型ロボット「CALIBO (キャリボ)」＝県庁

開発したのは郡上市育ちのエンジニア富田茂さん(44)が起業した3次元CAD設計のベンチャー企業「キャリオ技研」。

岐阜市に開発本部を構え、自動車や航空機部品設計だけでなく、自転車をベースにした小型電気車両や太陽光発電を使ったリチウム電池への急速充電システムなども手掛ける注目の企業。可児郡御嵩町と「環境対策」と「夢のある教育と人材育成」で相互連携協定を結んでいる。

探査ロボは社内ベンチャー開発製品。無線通信機能付きカメラを搭載したラジコン飛行機やヘリコプターを使い、災害発生時の現場状況を地上に伝える。人型ロボット「CALIBO(キャリボ)」を同乗させ、現場からの情報収集力を格段に向上させた。

アルミ製のCALIBOは身長45センチ、重さ1.7キロ。ラジコン操作で22個のモーター軸を上下左右、自在に動かして操作。開発には岐阜県の緊急雇用創出事業も活用していたことから、ミナモダンスも踊ることになったという。

跳んだりはねたりはできないものの、腕や膝をスムーズに動かして踊る姿は見事。富田さんは「子どもたちに夢を、との国体コンセプトに共感。国体の盛り上がりにつながれば」と話し、機会があればイベントなどに登場させる考えもある。